県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの　９月号

農業普及現場

普及活動標語
思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.199　2023.9

紹介内容（8/1～8/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
〇　大河原農改：令和５年産「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
〇　石　巻農改：加工用ばれいしょ収穫実演会を開催しました
〇　美　里農改：トヨタの現場改善セミナーが開催されました
〇　美　里農改：申告だけではもったいない！「複式簿記を活用した経営管理講座」が始まりました

②　新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
〇　仙　台農改：農業大学校の学生が先進農業体験学習に先立ち普及センターを訪問しました
〇　大河原農改：先進農業体験学習を前に農業大学校学生の普及センター訪問が行われました
〇　亘　理農改：みやぎ農業未来塾「第２回地域農業紹介講座」を開催しました
〇　登　米農改：みやぎ農業未来塾「気象の基礎知識を身に着けよう！」を開催しました
〇　気仙沼農改：本吉響高校が地場産品直売会に参加しました
〇　石　巻農改：女性農業者キャリアアップ講座「視察研修会」を行いました
〇　登　米農改：令和５年度宮城県農業大学校入校生の普及センター訪問が行われました
〇　美　里農改：美里地区農業士会第１回研修会が開催されました
〇　美　里農改：美里地区農業士会通常総会及び歓送迎会が開催されました
〇　美　里農改：美里地区みやぎ農業未来塾就農希望者コースを開催しました
〇　仙　台農改：みやぎ農業未来塾「先進事例視察会」を開催しました
〇　亘　理農改：「第３回いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しました

③　先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
〇　気仙沼農改：農業用ドローンによる作業実演会（第２回）を開催しました

④　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
〇　大河原農改：柿の現地研修会が開催されました！
〇　大河原農改：ポットマムの現地検討会が行われました
〇　登　米農改：加工用ばれいしょの収穫が最盛期を迎えました
〇　仙　台農改：仙台市内で加工用ばれいしょが収穫時期を迎えました
〇　美　里農改：「JA 新みやぎさつまいも研究会」が設立されました
〇　美　里農改：加工用ばれいしょが収穫されました！
〇　栗　原農改：くりはらスプレーマム研究会現地検討会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
○　栗　原農改：JA 新みやぎ栗っこ多収穫米生産部会が開催されました
○　気仙沼農改：飼料作物展示ほの巡回検討会が開催されました
○　登　米農改：JA みやぎ登米迫稲作経営部会のカメムシすくい取り調査が行われました
○　大　崎農改：大崎の地域ブランド米「ささ結」栽培現地検討会が開催されました
○　大　崎農改：大崎市岩出山地区で加工用トマトの機械収穫作業が行われました
○　気仙沼農改：地域コミュニティー誌（かわら版第１号）が発行されました
○　栗　原農改：大豆の摘芯技術勉強会を開催しました
○　登　米農改：JA みやぎ登米豊里稲作部会の視察研修会が開催されました

２．時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

①　時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
○　大　崎農改：鬼首・岩出山の花き農家を巡回しました
○　石　巻農改：石巻管内で大豆現地検討会が行われました

３．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

①　地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
○　亘　理農改：亘理名取地区農業振興連絡会議を開催しました
○　美　里農改：真夏のとうもろこし巨大迷路！「ゴールドデント 777WAKUYA2023」が開催されました
○　気仙沼農改：表山田・三段田地区農地整備事業に係る報告会が開催されました
○　気仙沼農改：金のいぶき栽培研修会（第２回）を開催しました
○　登　米農改：登米地区生活研究グループのグループ員研修を開催しました
○　大　崎農改：新商品の試作を行いました
○　気仙沼農改：「蔵の華」栽培研修会（第２回）を開催しました
○　大　崎農改：地場野菜と牛乳を使った料理実習で技も元気もアップ

②　環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
○　気仙沼農改：第２回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○令和5年産「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
令和5年8月1日
大河原農業改良普及センター

大河原管内は、県内における「だて正夢」の作付比率が約 22%と比較的高い地域です。
大河原管内における「だて正夢」の高品質・収量安定化に向け、７月 13 日に「だて正夢地域栽培塾」を角田市及び蔵王町の２会場で開催しました。
地域栽培塾では、管内の水稲生育調査の結果に基づいた「だて正夢」の生育状況について説明したほか、実証水田の幼穂長を確認し、追肥時期の判断や出穂期の予想を行いました。また、「だて正夢」に感染可能ないもち病菌の発生が県内でも確認されていることを踏まえ、いもち病の発生に注意するよう説明しました。
参加者からは、自分のほ場の生育状況に合わせた施肥方法等について質問がありました。
秋には、おいしい「だて正夢」を消費者の皆様に届けられるよう、今後も生産者とともに生育状況を確認しながら、栽培技術のサポートを図って参ります。

○加工用ばれいしょ収穫実演会を開催しました
令和5年8月2日
石巻農業改良普及センター

令和５年７月 25 日に東松島市大塩地区で県園芸推進課主催の「加工用ばれいしょ収穫実演研修会」が開催され、県内各地からばれいしょに取り組む農業法人や農業者、関係機関等約 60 人が参加しました。
栽培ほ場では、生産者である（農）おおしお北部がハーベスターを使った収穫作業を実演後、カルビーポテト(株)から良品生産のためのポイントについて説明がありました。
巨大な収穫機を目の前に、機械の構造や収穫の仕組みなどを具体的に説明していただき、参加者はメモを取るなど、熱心に聞き入っていました。
７月 21 日には東北地方が梅雨明けし、管内ではこれから加工用ばれいしょの収穫が本格化します。今年は大雨や夏疫病の被害があったものの、生産者の適切な栽培管理により無事に収穫を迎えることができ、関係者一同ほっとしております。
普及センターではＪＡいしのまきと連携して、これからも加工用ばれいしょの作付け拡大に取り組んで行きます。

○トヨタの現場改善セミナーが開催されました
令和5年8月7日
美里農業改良普及センター

令和５年７月 25 日に、美里町主催の「トヨタの現場改善セミナー」が開催され、美里町内の農業法人等から 20 名以上が参加しました。

本セミナーは、トヨタ自動車の生産方式の基礎である「整理・整頓」や「ムダの排除による原価低減」等のノウハウを学び、農業現場へ応用することで作業の効率化や生産性向上につなげることを目的に開催されました。

午前中の座学研修の後、午後は実際に農業法人の現場を見ながら、具体的な改善の方法について詳しくアドバイスを受けました。参加者は、整理・整頓の重要性を再認識し、改善のイメージが掴めた様子でした。11 月に開催予定の第２回研修会に向けて、参加者は今回の研修で学んだ内容を活かし、各自の現場で改善に取り組む予定です。

○申告だけではもったいない！「複式簿記を活用した経営管理講座」が始まりました
令和5年8月16日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは、複式簿記に取り組む農業者を対象に「複式簿記を活用した経営管理講座」を開講しました。令和５年８月２日に第１回の講座を開催し、管内の新規就農者や女性農業者が参加しました。

この講座は令和５年８月から令和６年１月まで、原則として毎月第一水曜日の午後に普及センターを会場に全６回開催します。「複式簿記を申告のためだけに使うなんてもったいない！」をテーマに、参加者が日頃から簿記記帳を行いながら経営管理を行い、農業経営の改善につなげられるように支援します。

毎回、最初の 30 分間は「複式簿記ミニ講座」として座学講習を行い、複式簿記の基礎や決算書の読み方など、簿記を経営管理に活用する方法を普及指導員が解説します。その後の「パソコン簿記個別相談会」では、参加者それぞれの状況や目的に合わせて個別相談に対応します。

本講座を通じて複式簿記を活用して、経営改善につなげられる農業者が増えるよう、残り５回の講座を継続して実施していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○農業大学校の学生が先進農業体験学習に先立ち普及センターを訪問しました
令和5年8月2日
仙台農業改良普及センター

この春に農業大学校へ入学した学生が、令和５年９月４日から 10 月６日までの 33 日間、県内の先進的な農家で体験学習を行います。これに先立ち、当普及センター管内で体験学習を行う学生９名が来所し、学習にあたっての注意事項や､お世話になる農家がどのような経営をしているのかについて学習しました。

学生たちは、初めのうちは緊張した様子でしたが、最後には体験学習で学びたいことや今後の学生生活や将来の就農に向けてしっかり学びたい、などの発表がありました。

体験学習は、技術的なことを学ぶだけでなく、農家の生活スタイルを学ぶことができる貴重な機会です。体験学習が終わる頃には、ひとりひとりがぐっと成長した姿が見られることを楽しみにしています。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者含め地域の担い手の新たな確保・育成に努めていきます。

宮城県農業大学校について詳しくは下記 URL（アドレス）をご覧ください。

宮城県農業大学校ホームページ：
https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/

○先進農業体験学習を前に農業大学校学生の普及センター訪問が行われました
令和5年8月2日
大河原農業改良普及センター

宮城県農業大学校では１学年次に先進農家での体験学習を行っており、大河原農業改良普及センター管内では２名の学生を農業法人で受け入れる予定です。体験学習に先立ち、当普及センターに学生が訪問しました。

普及センター担当者が受け入れ農家の経営概要について説明を行った後、仙南地区農村青少年クラブ会長から、クラブ活動の紹介や会員の農業経営の特徴について話しました。

意見交換では、学生から「将来就農を希望しているので、栽培技術の他に経営の考え方や年間スケジュールの立て方を学びたい。」といった体験学習への抱負が述べられ、「就農地が決まっているならば、土地にあった作物や鳥獣害の状況などを地元の農業者に聞き取りを行った方がいい。」などのアドバイスがありました。

先進農家体験学習は９～10 月に 33 日間行われ、学生は農業者のもとで農業技術や経営について直接学ぶ予定です。

○みやぎ農業未来塾「第２回地域農業紹介講座」を開催しました

令和５年８月７日
亘理農業改良普及センター

令和５年７月 28 日（金）、亘理農業改良普及センターを会場に農業大学校の学生を対象に「みやぎ農業未来塾【第２回地域農業紹介講座】」を開催し、11 人が参加されました。本講座は農業大学校の１年生の学生が９月から行う先進農業体験学習に向けた普及センター訪問に合わせて実施しました。

本講座では、始めに当普及センターから先進農業体験学習の受入農家の概要について紹介しました。続いて株式会社燦燦園及び農事組合法人林ライスに就農した同大学校の卒業生２人を講師に、農業大学校の先進農業体験学習を受ける心構えや就農についてお話をいただきました。講師からは、先進農業体験学習で人とのコミュニケーションや周囲に目を配る大切さを学んだこと、先進農業体験学習やその後さらに追加で実施できるオプション研修が、現法人に就職するきっかけになったこと、今の仕事のやりがいや苦労等、多岐に渡りお話しいただきました。

参加した学生からは、研修に先立ち「先輩の体験談を聞くことができて安心した。」などの感想が寄せられました。本講座が農業大学校の学生にとって就農意欲の醸成、先進農業体験学習に向けた準備の一助となれば幸いです。

普及センターでは、今後も担い手の確保及び育成に努めてまいります。

○みやぎ農業未来塾「気象の基礎知識を身に着けよう！」を開催しました

令和５年８月７日
登米農業改良普及センター

令和５年７月 31 日(月)に登米合同庁舎において、みやぎ農業未来塾「気象の基礎知識を身に着けよう！」を開催し、新規就農者や女性農業者６人が参加しました。

近年、毎年のように異常気象が発生し、農業生産に苦労する場面が増えてきているため、気象の基礎知識について学び日々の栽培管理に役立てることができるよう、本研修会を開催しました。

仙台管区気象台のリスクコミュニケーション推進官の小野寺優氏を講師に迎え、天気の一般的な知識について講義していただきました。季節ごとの天気の特徴、天気図の見方、防災気象情報、地球温暖化など、多岐にわたって説明いただきました。参加者からは、登米でみられる‘朝てかり’と言われる現象や宮城県における次の日の気象が分かる現象についてなど、多くの質問がありました。

当普及センターでは、今後も新規就農者を対象に研修会等の開催や個別巡回による支援を実施していきます。

○本吉響高校が地場産品直売会に参加しました

令和５年８月８日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年８月４日、気仙沼合庁で地場産品直売会が開催され、本吉響高校農業専攻の２年生２人が、他の出展者３社とともに参加しました。販売ブースには、高校で栽培したトマト、きゅうりやピーマンなど旬の野菜がところ狭しと並び、採れたてで値段が安いこともあって、買い物袋いっぱいに買い求めるお客様もいらっしゃいました。

生徒は、野菜の食べ方を聞かれたり、お金の計算で戸惑うなど不慣れな場面もありましたが、引率の先生に助けられ、スムーズに接客できたようでした。

販売会終了後に生徒に感想を求めたところ、「楽しかった」と笑顔で返事が返ってきました。今回の販売

会で得られた経験を、今後の学びの糧として成長されることを期待しています。

○女性農業者キャリアアップ講座「視察研修会」を行いました

令和5年8月9日
石巻農業改良普及センター

令和５年７月 19 日に女性農業者組織「ベジ☆hope」を対象に女性農業者キャリアアップ講座「視察研修会」を行いました。今回は、宮城県農業・園芸総合研究所、JR フルーツパーク仙台あらはま、東松島市の吉田農園を視察しました。

宮城県農業・園芸総合研究所では施設野菜のなす、きゅうりの主枝つるおろし栽培や、露地野菜の長ねぎの周年栽培、せりの高設栽培など、現在取り組んでいる野菜栽培技術について学びました。また、仙台ターミナルビル㈱が震災の集団移転跡地に建設したJR フルーツパーク仙台あらはまでは、ホテルメトロポリタン仙台のシェフがプロデュースした地域食材を使った昼食を堪能し、併設されている直売所「あらはまマルシェ」にて地元農業者が生産した野菜や農園で生産された果物の販売状況を視察しました。最後に、福島県の盛土式根圏制御栽培を導入しぶどう栽培を行っている東松島市の吉田農園を視察しました。吉田氏からは自施工によるハウス設置の大変さや栽培方法を１から情報収集して行う苦労についてお話しいただきました。

参加者からは、「普段、家事や育児等あり勉強会へ参加することが難しかったが、今日は他の生産者のほ場を見る良い機会となった。来年以降も開催したい」との声が挙がりました。

当普及センターでは、女性農業者の生き生きとした活躍に向けて、引き続き支援していきます。

○令和5年度宮城県農業大学校入校生の普及センター訪問が行われました

令和5年8月9日
登米農業改良普及センター

令和５年７月 28 日、９月から約１か月間、登米管内で宮城県農業大学校の先進農業体験学習に臨む１年生４人が登米農業改良普及センターを訪問しました。

普及センターからは、普及センター活動、管内の農業概況や体験学習の受入農家の経営概要について説明しました。また、登米市４Ｈクラブ員にも出席いただき、クラブ活動の状況を紹介しました。

訪問した学生のほとんどが卒業後は研修等を経て自家就農を希望しており、受入先農家の取組みについてなどの質問がありました。学生は、普及センターの説明に耳を傾けながら熱心にメモをとるなど将来の就農に向けた情報を積極的に収集していました。

○美里地区農業士会第1回研修会が開催されました

令和5年8月15日
美里農業改良普及センター

令和５年７月 27 日に、美里地区農業士会第１回研修会が東松島市で開催され、株式会社石巻青果と株式会社ぱるファーム大曲を視察しました。

初めに、株式会社石巻青果では常温卸売市場と低温卸売市場、加工施設のパッケージ業務など施設や実際の作業を見ながら、地方卸売市場の役割を教えていただきました。

次に、株式会社ぱるファーム大曲では小岩代表から穀類乾燥調製施設や農機具格納庫を見ながら、東日本大震災後の 2013 年に、震災交付金で東松島市が整備した機械や施設を借受けて営農を再開し、水稲麦大豆や施設トマトなど 100ha 以上の大規模経営となり、圃場管理システムや大豆乾燥調製、施設園芸等への取組を話していただきました。

参加者は、青果物流通における地方卸売市場の役割や震災復興を担う大規模農業法人の経営戦略を学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。

○美里地区農業士会通常総会及び歓送迎会が開催されました

令和5年8月15日
美里農業改良普及センター

令和５年７月 27 日に菜園レストラン野の風（美里町）で令和５年度美里地区農業士会通常総会及び歓送迎会が開催されました。

初めに、会長が「コロナ５類移行で農業士会の活動が通常どおりに行うことができ、皆様のご協力に感謝する。」と挨拶され、続いて、普及センター所長から「物価高騰など経営環境が厳しい中、農業士の創意工夫による優良経営と後継者育成、地域農業振興への活動に感謝している。」との祝辞をいただきました。

議事では、令和４年度事業報告・収支決算、令和５年度事業計画案・収支予算案、年会費・納入方法、役員改選の４議案について原案どおり承認されました。

総会後、歓送迎会が開催され、退任指導農業士１名、新任農業士３名の経営概要や業績などを紹介し、本人からも自己紹介と農業士への抱負を話していただきました。

４年ぶりの懇親会では、厳しい経営環境が続く中での農政への要望や意見、普及センター職員との情報交換など会員等の相互交流が深められ、有意義な歓送迎会となりました。

今年度、美里地区農業士会は指導農業士１５名、青年農業士５名で研修等の研鑽や組織活動をしており、普及センターでは関係機関と連携して農業士活動を支援していきます。

○美里地区みやぎ農業未来塾就農希望者コースを開催しました

令和5年8月15日
美里農業改良普及センター

令和５年７月 28 日に農業大学校先進農業体験学習に係る普及センター訪問に合わせ、美里地区みやぎ農業未来塾就農希望者コースを開催しました。

はじめに、所長から「人との出会いを大切に、有意義な研修をしてほしい。」と挨拶があった後、農大１年生４名が自己紹介を行いました。普及センターからは、先進農業体験学習受入先について、A社（美里町で水稲麦大豆＋野菜の 128ha の大規模経営）、B社（大崎市鹿島台で水稲麦大豆＋野菜の 81ha を経営）、C氏（鹿島台で繁殖・肥育牛の一貫経営）、D氏（美里町で水稲＋繁殖牛を経営）の４者の概要を説明しました。

次に、現地視察では、A社の夏限定ゆでトウモロコシ直売所に立寄った後、D氏の繁殖牛経営を見学しました。

D氏は、水稲等 28ha＋繁殖牛 31 頭を経営、県指導調教師や元県指導農業士を務め、飼養管理技術が高く、研修生も多数受け入れています。大型牛舎では、給餌や掃除の方法、繁殖管理、市場出荷、飼料価格高騰など繁殖牛経営について具体的にお話を伺いました。

農大生４名は将来、親元就農や雇用就農を希望しており、今回の未来塾で研修先の概要を知り、受入先農家から直接話を聞いたことで、先進農業体験学習への意欲が高まったようでした。

○みやぎ農業未来塾「先進事例視察会」を開催しました

令和5年8月16日
仙台農業改良普及センター

令和５年８月３日に、仙台農業改良普及センター管内の若手農業者を対象に、みやぎ農業未来塾「先進事例視察会」を開催しました。

今回の研修会は、管内の若手農業者の経営を学ぶことを目的に、紫鹿農園（仙台市太白区）の沼田勇士氏と熊谷農園（仙台市泉区）の熊谷貴幸氏を現地視察しました。

紫鹿農園の沼田さんは、令和４年６月に新規就農し、水稲と露地・施設野菜を栽培しており、仙台市内スーパーのインショップに出荷するほか、自宅前に直売施設を設置し、販売しています。近くに大きな住宅団地があり、散歩がてら新鮮な野菜を求めるお客様が絶えません。熊谷農園は水稲と原木しいたけの栽培をしており、しいたけについては、宮城県の農林産物品評会では農林水産大臣賞を、全農乾椎茸品評会では日本一を獲得するなど、その品質は折り紙付きで、市内のホテルやレストランからも引き合いがあります。

参加者がお二人のお話に大変刺激を受けただけでなく、沼田さん、熊谷さんともに「同年代の人と農業に関する話をする機会が少ない」と、研修参加者とのお話が尽きない様子に、これからも交流が続いていくことが期待されました。

仙台農業改良普及センターでは、これからも様々な研修機会を通して、青年農業者を支援していきます。

○「第３回いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しました
令和5年8月24日
亘理農業改良普及センター

亘理・山元地域のいちごは、東日本大震災後の創造的復興により約 68ha に及ぶ東北一の産地となっており、生産を再開した生産者の後継者や県外からの新規参入者などいちご生産に取り組む若手が増加しています。しかし、各生産者間の繋がりや栽培に関する情報交換等の機会が少ない状況にあることから、普及センターでは関係機関と協力し、勉強会を開催してきました。

第３回はいちごの収量確保を左右する「いちごの花芽分化」をテーマに開催しました。

当日は管内各法人、若手生産者を含め 40 人が参加しました。前半は、花芽分化の基本事項を講義の中で確認した後、実際にいちごの生長点・花芽を実体顕微鏡の画像を拡大した映像により、参加者全員が実物で花芽の観察を行いました。

後半には、生産者が４グループに分かれ、夜冷処理に関するメリットとデメリットについてグループワークを行いました。参加者からは「みんなで話ができるのが楽しい」「いろいろな考え方を知ることができて良かった」などの感想が聞かれ、いちごに関する理解を深め、互いの交流を深めるよい機会となったようです。

普及センターでは、新規生産者・後継者向け勉強会を継続的に開催する予定にしており、東北一のいちご産地の更なる発展に向けて支援してまいります。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○農業用ドローンによる作業実演会（第２回）を開催しました
令和5年8月8日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年８月４日、気仙沼市本吉町津谷新明戸の水田を会場に、本年度第２回目となる農業用ドローンによる作業実演会を開催し、生産者や市、JA、農機具代理店等の関係機関や地元新聞社など計 14 名が参加しました（「金のいぶき」栽培研修会との２部構成）。

最初に、普及センター担当から、農業用ドローンの概要や本年度４月から本格運用を開始した「宮城県 RTK システム」の概要およびシステムを利用した自動飛行の方法等について説明を行った後、出穂後の斑点米カメムシ類・穂いもちを対象とした茎葉散布を想定した実演を行いました※。

自動飛行により、約 60a の水田の散布を３分半で終えると、参加者からは自動飛行のためのほ場測量の方法、資材に応じた散布可能面積、農業用ドローンの利点について、質問が挙げられました。

オペレーターを務めていただいた（株）小峯興業芳賀代表取締役からは、実際に導入・活用している生産者の観点から、農業用ドローンの活用による効率化に加え、作業負担の軽減が図られること、RTK システムにより、数㎝という高精度で散布が可能になるなどの利点とともに、RTK システムの受信がうまくできない場合があること、操作にはある程度習熟が必要なこと、導入・維持にはある程度コストがかかるので、経営判断が必要なことなどの課題・留意点を御紹介いただきました。

中山間地域の農業の効率化に向け、農業用ドローンは非常に効果的なツールです。こちらからも、現場のニーズに応じて研修会を開催してまいりますので、御興味のある方は普及センターにお問い合わせください。

※防除適期の穂揃い期には達しなかったため、デモとして水を散布

④園芸産地の育成・強化支援

○柿の現地研修会が開催されました！
令和5年8月1日
大河原農業改良普及センター

令和５年７月19日に丸森町農業創造センター主催の柿の現地研修会が開催され、普及センターは講師を務めました。

当日は、資料を用いて摘果や病害虫防除について説明後、摘果と新梢管理を実演し、理解を深めました。を行いました。参加者からは、一果実あたり何枚の葉が必要かなど、様々な質問が飛び交う活気のある研修会となりました。

今年度は、奇形果や凍霜害などもなく順調に生育しており、生産者も一安心の様子です。

普及センターでは、今後も柿栽培への技術支援を行っていきます。

○ポットマムの現地検討会が行われました
令和5年8月4日
大河原農業改良普及センター

柴田鉢花研究会では、５月の母の日向けポットカーネーションの出荷終了後、施設内を一斉にポットマムに入れ替え、７月から10月まで長期に渡った出荷を行っています。

「ポットマム」とは、英語の鉢（ポット）とキク（クリサンセマム）を合わせた言葉で、草丈を短く作った洋ギクの鉢作りを言います。

当地で生産されるポットマムは、多種多様な花色と花形があり、次々と蕾を持つことで鑑賞期間が長いことから、敬老の日のギフトをはじめ幅広い用途に使える鉢花として市場や量販店等から高い評価を受けています。

ポットマムの出荷が始まったことを受け、７月 26 日に現地検討会が開催されました。

検討会には生産者・関係機関・市場関係者などが参加し、各作型の生育状況や病害虫の有無を確認し、出荷までの栽培管理について農協や普及センターよりアドバイスを行いました。総合検討では、集荷方法等についても詳細に話し合われました。

夏の暑さが厳しい今年の天候は、ポットマムの管理が難しく、生産者は例年通りの品質を維持するため高温対策等を行っています。普及センターでは、今後も良品生産に向け栽培技術面を中心に支援を続けて行きます。

○加工用ばれいしょの収穫が最盛期を迎えました
令和5年8月4日
登米農業改良普及センター

登米地域では、令和３年度に加工用ばれいしょを栽培する生産者で「登米ぽてと組合」を設立し、組織的な取り組みが行われており、今年の加工用ばれいしょ作付け面積は 20ha 弱となっています。

昨年は収穫直前の豪雨により大きな被害を受け、今年度も６月と７月の大雨による収量品質への影響が心配されましたが、無事収穫期を迎えることが出来ました。収穫途中ですが、生産者からは異常気象による影響が少なかった一昨年に近い収量が得られそうだとの声も聞こえています。

普及センターでは、加工用ばれいしょの生産者を対象に、栽培技術向上を支援するプロジェクト課題に取り組み、安定した収量・品質の確保に向けて、課題となっている排水対策や適切な雑草防除など、今後ともさらなる安定生産に向けて支援してまいります。

○仙台市内で加工用ばれいしょが収穫時期を迎えました

令和5年8月15日
仙台農業改良普及センター

仙台市内の加工用ばれいしょが収穫時期を迎え、7月24日から収穫作業が開始されました。収穫が行われたのは、農事組合法人福鶴ファームのほ場で、令和4年から転作作物の一つとして栽培が始まり、今年で2作目になります。収穫作業は今年導入した収穫機械を使用して行われ、生産者は機械の上に乗って丁寧に選別作業を行いながら、ばれいしょの収量や品質を確かめていました。

法人の担当者によると、昨年の実績を踏まえて栽培方法を改善するなど工夫し、今年はより多くの収穫が見込めそうだとのことでした。収穫は8月上旬までに完了する予定で、収穫後は契約先であるカルビーポテト（株）へ出荷されます。

○「JA 新みやぎさつまいも研究会」が設立されました

令和5年8月15日
美里農業改良普及センター

令和5年7月21日にＪＡ新みやぎみどりの統括センターにおいて、生産者8名が出席し、「JA新みやぎさつまいも研究会」設立総会が開催されました。

近年、さつまいもの需要が拡大していることから、JA 新みやぎでは令和4年度より、さつまいもの作付推進活動や栽培講習会を開催しています。今後、更なるさつまいもの生産拡大に向けて、生産技術の向上と品質の均一化により、産地化を図ることを目的とし、本研究会が設立されました。

総会は設立趣意書から研究会規約等のすべての議案が承認され、役員5人が選出されました。研究会長の就任挨拶では、さつまいも生産拡大に向けて決意表明があり、今後の研究会の発展が期待されました。

普及センターでは、JA 新みやぎさつまいも研究会と連携し、管内におけるさつまいも生産拡大と産地化を支援していきます。

○加工用ばれいしょが収穫されました！

令和5年8月15日
美里農業改良普及センター

美里地域では、平成20年に美里ぽてと部会が設立される等、県内でも早くから加工用ばれいしょに取り組んでおり、今年の作付け面積は約22haとなっています。

今年は、梅雨明け後の7月下旬から加工用ばれいしょの収穫がはじまり、8月上旬に終了しました。昨年は7月の大雨被害により、美里地域ではばれいしょの収穫がほとんどできない状況でした。今年も6月や7月の雨による影響が心配されましたが、無事に収穫を迎えることができ、関係者一同ほっとしています。収穫されたばれいしょは順次、選別・出荷され、最終的にポテトチップス等に加工される予定です。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、加工業務用ばれいしょの安定生産に向けた支援を行っていきます。

○くりはらスプレーマム研究会現地検討会が開催されました

令和5年8月24日
栗原農業改良普及センター

令和５年６月 29 日、栗原市一迫で、くりはらスプレーマム研究会現地検討会が開催され、会員 10 名が参加しました。検討会では、会員のスプレーギク等の栽培ほ場を見て回り、導入品種や生育状況等の確認が行われました。お盆やお彼岸の需要期の出荷に向けたスプレーギク等の生育は、病害虫の発生もなく順調な生育でした。

当普及センターからは、会員の栽培概要のほか、農作業中の熱中症予防に関する情報提供を行いました。今後とも、研究会会員間の交流と栽培技術向上を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○JA 新みやぎ栗っこ多収穫米生産部会が開催されました
令和5年8月8日
栗原農業改良普及センター

令和５年７月７日（金）に JA 新みやぎ栗っこ多収穫米生産部会が主催する多収穫米栽培現地検討会が栗原市金成町桜木及び金生地区の「萌えみのり」と「しふくのみのり」ほ場を会場にして開催されました。検討会には部会員の他、実需の（株）ヤマタネや、農研機構等から約 20 名が参加しました。最初に、現地ほ場において JA 担当者から萌えみのり等の耕種概要と生育経過等の説明を受けた後、生育状況を確認しました。

現地検討会終了後は、会場を JA 新みやぎ金成中央支店の会議室に移し、部会員各々の耕種概要や、普及センターから本年の水稲の生育状況や今後の管理について説明を行いました。実需からは米の需給状況の見通しについての情報提供等を行った後、「萌えみのり」の生育の特徴等について意見交換が行われました。

現地検討会に参加した生産者は、実需からの生産普及拡大の要望を受け、多収穫米栽培における収量向上・安定生産、生産の拡大に対する決意を新たにしていました。

○飼料作物展示ほの巡回検討会が開催されました
令和5年8月8日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年７月 21 日、県内９普及センターの飼料作物展示ほ(稲 WCS 及び飼料用トウモロコシ)を巡回し、生育状況の確認や今後の管理について検討する巡回検討会が気仙沼からスタートしました。気仙沼の展示ほは、たい肥を連年施用し継続的に稲 WCS を栽培しているほ場で昨年まではオモダカなど雑草の発生が続いていましたが、昨年の検討会での検討結果が活かされ、今年度は雑草の発生が少なく生育も順調となっていると評価されました。また、たい肥連年施用のため葉色が非常に濃くなっていること、管理する農家の都合で今年は例年より 1 か月早い８月下旬の収穫のため、硝酸態窒素の含有量に注意した給与などアドバイスをもらい、気仙沼地区での検討会は終了しました。

○JAみやぎ登米迫稲作経営部会のカメムシすくい取り調査が行われました
令和5年8月14日
登米農業改良普及センター

令和５年８月２日、９日に、ＪＡみやぎ登米迫稲作経営部会のカメムシすくい取り調査が行われ、生産者３名と登米市及び普及センターの担当者が参加しました。

迫地区のカメムシ防除は８月５日、６日に実施さ

れ、防除前後ですくいとったカメムシの個体数を比較し、防除効果と適期についての検討を行いました。

今年は高温の影響もあり、宮城県病害虫防除所からの発生予察情報の発生量では「多い」と予報されています。２日の調査でカメムシの発生が見られたほ場も、9日の調査ではほとんど発生が見られず、適期にカメムシ防除が実施されたことを確認することができました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稲の品質の向上を目指した取組について、支援を行ってまいります。

○大崎の地域ブランド米「ささ結」栽培現地検討会が開催されました

令和5年8月14日
大崎農業改良普及センター

７月 24 日に大崎市主催で「ささ結（東北１９４号）」栽培現地検討会が開催され、生産者や関係機関など約 20 名が参加しました。最初に古川農業試験場作物育種部から食味・品質を確保する栽培のポイントについて、次に当センターから一般水稲の生育状況と今後の管理の要点について説明しました。また、大崎市で取り組んでいる世界農業遺産認証農産物の取組要件である田んぼの生きもののモニタリングの手法について、自然環境専門員の三宅氏より説明がありました。栽培農家の齋藤武康氏からは、「ささ結」の生育状況や栽培方法等について報告がありました。

「ささ結」ブランド化の旗振り役を務める大崎市安部世界農業遺産推進監からは、本年度は 30ha 増の 120ha 程度となったこと、「ささ結」の最終清算金は「ひとめぼれ」と比較して 1,500 円/60kg 高いこと、農家の手取りを上げつつ産地拡大を目指す旨の期待を込めたあいさつがありました。

○大崎市岩出山地区で加工用トマトの機械収穫作業が行われました

令和5年8月16日
大崎農業改良普及センター

大崎市岩出山地区の法人では、令和５年度から水田を活用して露地栽培での加工用トマトの栽培に取り組んでいます。初の作付けでしたが生育も順調に進み、８月７日から収穫作業が開始されました。収穫作業には出荷先である食品メーカーが所有する加工用トマト専用の収穫機を使い、機械上で選別されたトマトは鉄コンテナに収穫され、翌日の朝には関東の工場に搬入されます。作業にあたった法人の代表者は、初めて扱う収穫機に当初戸惑う場面もあったとのことでしたが、その後は順調に収穫が進み、初の作付けに手ごたえを感じているようでした。

近年、水田で取り組む高収益作物として、機械化体系が確立されている露地野菜品目への関心が高まっています。普及センターでは、水田を活用して新たに野菜栽培に取り組む生産者支援を行っていきます。

○地域コミュニティー誌（かわら版第 1 号）が発行されました

令和5年8月18日
気仙沼農業改良普及センター

かわら版　第１号

令和５年７月２８日　　馬山田・三股田地区保護隣接地造改員会

は場整備事業への理解を深めるとともに、地域農業の将来の在り方について合意形成を図るため、地域のコミュニティー紙「かわら版」を発行します。

＋ えだまめの収穫作業がまもなく始まります

地域農業の収益向上に向けて、今年から高収益作物である「えだまめ」と「さつまいも」の試験栽培を開始しました。

○えだまめ　（栽培面積約 4.4a）
５月１日と１２日の２回に分けて播種しました。順調に生育し、現在はさやが膨らみ、まもなく収穫となります。道の駅大谷海岸に出荷しますので、お買い求めください。

○さつまいも　（栽培面積約 6.6a）
５月２８日に「紅あずま」の苗を定植しました。
６月１６日の大雨で一時的に冠水しましたが、生育への影響はなく、現在は、葉が畑を覆いつくしています。

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、ほ場整備事業採択に向け推進委員会を設立しています。将来を見据え、地域農業の収益向上に向けて、えだまめやさつまいもなど高収益作物の試験栽培に取り組んでいます。

５月１日と 12 日の２回に分け播種した枝豆は、好天にも恵まれ順調な生育を見せ、７月 29 日から地元の道の駅大谷海岸の産直市場にて販売を開始しました。1 日 50～60 袋を出荷し、販売も好調で即日完売とのことです。また、令和５年５月 28 日に定植したさつまいもも順調な成長をしています。

このような取組などの情報やほ場整備への理解醸成・地域の合意形成を図るため、推進委員会として定期的に地域コミュニティー誌（かわら版）を発行することとし、この度記念すべき第１号が発行され地域内外へ配布されました。

今後、農地の利用や担い手への農地の集積など地区の合意形成を図っていく必要があることから、普及センターでは引き続きこの地域の取組を支援してまいります。

○大豆の摘芯技術勉強会を開催しました
令和5年8月21日
栗原農業改良普及センター

令和５年８月２日、栗原市若柳福岡地区で大豆のミヤギシロメを栽培している農業生産法人を対象（当日は４名参加）として、古川農業試験場の研究員が講師となり「大豆の摘芯技術勉強会」が開催されました。対象法人ではミヤギシロメの蔓化・倒伏が問題となっており、摘芯専用機を使用した作業の技術習得を行いました。

はじめに、播種日や生育ステージの異なる複数のほ場を巡回し、生育ステージ別に蔓化・倒伏が心配される生育量、摘芯作業実施の判断基準について研究員から説明がありました。つづいて、摘芯機の高さの調節、作業速度など具体的な作業上の注意点があり、法人のオペレーターが実際に作業を行いました。

参加した４名は実施の判断基準、摘芯専用機の調整方法などを熱心に確認し、摘芯技術の知識を深めたようでした。

○JAみやぎ登米豊里稲作部会の視察研修会が開催されました
令和5年8月31日
登米農業改良普及センター

令和５年８月 25 日に、ＪＡみやぎ登米豊里稲作部会の視察研修会が開催され、生産者とＪＡ担当者９人が参加しました。

部会では、「ササニシキ」の栽培に力を入れて取り組んでおり、毎年県の農林産物品評会や「ささ王」コンテストにおいて上位入賞者を輩出しており、「ササニシキ」誕生 60 周年に当たる今年は、これまで以上に高品質の米を作ろうと気合が入っています。

また、今年度中に、10 年以上前に作成した「ササニシキ」栽培暦について、近年の気象条件や生産環境に合わせた部会独自の内容にリニューアルする計画があることから、今回の研修では、栽培暦改訂の参考となるよう、有機肥料や脱マイクロプラスチック肥料対策等について普及センターから説明を行いました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稲の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

２．農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○鬼首・岩出山の花き農家を巡回しました
令和5年8月18日
大崎農業改良普及センター

令和５年８月４日、大崎市内の花き生産者のほ場で、８月盆に出荷する花きの生育状況の確認を行い

ました。盆の需要期を控え、岩出山地区では露地ぎくやアスターが概ね順調に生育していました。
今年は天候に恵まれ、特に岩出山地区の生産者のアスターは品質が良く、生産者は盆出荷に向けて張り切っていました。

○石巻管内で大豆現地検討会が行われました
令和5年8月29日
石巻農業改良普及センター

令和５年８月 21 日に JA いしのまき転作部会が主催する大豆現地検討会が開催されました。石巻管内の４ほ場（矢本、河南、鹿又、蛇田）を巡回し、今年の生育経過や今後の栽培管理について確認しました。記録的な高温と降雨がない期間が続いているため、地下灌漑システム（FOEAS）を使って畑に灌水している「タンレイ」の種子生産ほ場や、令和７年から宮城県で本格的に栽培開始する新品種「すずみのり」や資材メーカーの除草剤・肥料の展示ほ場の生育を確認しました。参加者は、畑に灌水する畝間灌水の方法や「すずみのり」の品種の特長、供試した除草剤や肥料の説明に聞き入っていました。現地巡回後は、総合検討があり、JA 全農みやぎの担当者から「今年の大豆の販売情勢について」、当普及センター職員から「大豆生産概況と今後の管理について」、資材メーカーから商品やサービスについての説明がありました。管内では、今年約 2,300ha の大豆が作付けされています。当普及センターでは、これからも石巻管内の大豆の高位安定生産に向けて、栽培支援を行っていきます。

３．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○亘理名取地区農業振興連絡会議を開催しました
令和5年8月3日
亘理農業改良普及センター

令和５年７月 21 日に亘理農業改良普及センターにおいて、管内２市２町の農政関係課長、名取岩沼農業協同組合とみやぎ亘理農業協同組合の営農部長出席のもと、令和５年度亘理名取地区農業振興連絡会議を開催しました。
高齢化や人口減少の本格化に伴い、農業者の減少や耕作放棄地の拡大など、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念され、農地の集約化等に向けた取組を加速化することが管内各関係機関共通の課題となっております。
こうした情勢を踏まえ、管内各関係機関と情報の共有を図り、亘理名取地区の農業振興を効果的に進めるため、「各市町の地域計画策定に向けた取組」、「各市町及び各農業協同組合の主要事業」及び「令和５年度普及指導計画」について情報交換を行いました。
会議では、各市町の地域計画策定に向けた取組と今後の対応等について、活発な意見交換が行われました。
普及センターでは、亘理名取地区の農業振興を図るため、関係機関と連携し、普及指導活動を進めてまいります。

○真夏のとうもろこし巨大迷路！「ゴールドデント777WAKUYA2023」が開催されました
令和5年8月7日
美里農業改良普及センター

令和５年７月 29 日、30 日に涌谷町内のデントコーン(※)畑を会場に「ゴールドデント 777WAKUYA2023」が開催され、２日間で約 2,200 人が巨大迷路に挑戦しました。
このイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、涌谷町内外で開催されていたイベントや行事が中止・縮小されたことを受け、コロナ禍における子供たちの遊びの場・思い出作りの場を提供することを目的に、自らが育てたデントコーンを乳牛に給餌している涌谷町内酪農家の企画で、令和２年から開催されています。

今年は、1.8ha のデントコーン畑に２種類の迷路コースを設け、それぞれのコースに設置された涌谷町に関するクイズに答えて隠されたキーワードを見つけると涌谷の特産品などが当たるクイズラリー企画のほか、29 日には夜の部イベント「トレジャーハンター」を初めて開催し、昼間とは違った雰囲気の迷路の中で子供も大人も夢中になって楽しんでいました。

さらに、クラウドファンディングを活用して、来場者に消費拡大 PR と熱中症対策として牛乳を無料配布し、輸入飼料や肥料・燃料等の価格高騰に苦しむ酪農家の支援にも取り組むなど、たくさんの人々の笑顔を生む涌谷町の夏の一大イベントとなりました。

※デントコーン：乳牛や肉牛等の餌となる「飼料用とうもろこし」のことで、収穫した実を餌にするほか、刈り取った実・茎・葉を細断して乳酸発酵を１～２か月行った「サイレージ」にして与えられます。

○表山田・三段田地区農地整備事業に係る報告会が開催されました

令和5年8月8日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年７月 23 日に表山田・三段田地区ほ場整備事業推進委員会による報告会（全体会）が開催されました。地元から 18 名、関係機関８名の計 26 名の出席。まず、昨年度に実施したほ場整備事業意向調査の集計結果が気仙沼市から報告されました。その後、気仙沼地方振興事務所農業農村整備部から今年度から３か年で実施されるほ場整備に向けた調査事業について説明されました。出席者からは主に事業の負担金に係る質問や高収益作物栽培の必要性などの質問が出され、推進委員会役員や関係機関から回答がなされました。さらに出席者からは早期のほ場整備を求める声があり、地域一丸となって進めていく方針が確認されました。

○金のいぶき栽培研修会（第２回）を開催しました

令和5年8月8日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年８月４日、水稲品種「金のいぶき」の栽培研修会（第２回）を開催し、生産者、関係機関など 13 名が参加しました（農業用ドローンによる作業実演会との２部構成）。

「金のいぶき」は玄米食専用であり、健康志向の需要に向けて高単価での取引が期待できることから、稲作経営振興に向け、管内での栽培を推進しています。

第２回目となる今回は、本品種の特性を踏まえた出穂後の管理に向けて、穂いもちの適期防除、穂揃い期の追肥の実施について普及センター担当から説明を行うとともに、展示ほ担当農家である（株）小峯興業芳賀代表取締役から、管理の要点について、栽培経験を踏まえて御紹介いただきました。

芳賀代表取締役から「収量を確保するために、最低２回は追肥を行う必要がある」、「穂揃い期追肥の実施に向け、出穂時期の見極めが重要」など、経験を踏まえたアドバイスを受け、本年度からの栽培を開始した生産者は、穂揃い期追肥の実施について改めて時期・量の確認を行うよう意識を新たにしていました。

本年度の栽培結果については、秋以降に実績検討会を開催し、次年度以降の更なる多収化につなげていく計画です。

○登米地区生活研究グループのグループ員研修を開催しました

令和5年8月9日
登米農業改良普及センター

登米地区生活研究グループでは、20 年以上前から「こんにゃくづくり」が盛んに行われています。会員各々が、こんにゃくの栽培から加工までを行い、家族で手づくりこんにゃくの味を楽しんだり、地域のお祭りや道の駅等で販売したりしています。

今回のグループ員研修では、実際にグループ員のほ場を見ながら、外部講師の食材王国みやぎ「伝え人」こんにゃく指導員の山家眞氏から、こんにゃくの栽培方法や種芋の残し方等について学びました。参加者からは、冬期の種芋の上手な保存方法等に関する

質問があり、講師から、保存方法の重要ポイントについてアドバイスをいただきました。今回の研修により、グループ内におけるこんにゃくの安定生産が期待されます。

普及センターでは、今後も生活研究グループをはじめとした女性農業者等の活動を支援してまいります。

○新商品の試作を行いました
令和5年8月16日
大崎農業改良普及センター

加美町では以前から地域おこし協力隊※１を募集しており、これまで多くの隊員を受け入れています。３年間の任期終了後は地域に定着し、それぞれの分野で活躍されていますが、このうちの８人が農業や地場産品を使った商品開発などによる加美町の活性化を目的とした組織「プラビラボ」を結成し活動しています。プラビとは加美の加（プラス＋）と美（beauty）を意味しています。

普及センターでは、今年度から加美町の中山間地域の活性化に向けたプロジェクト活動を展開していますが、その一環としてプラビラボと協力して加美町の特産品づくりや中山間地域の活性化に取り組むこととしています。特に今年度は、加美町産の農産物を原料とした加工品の試作、販売を行うこととしており、４月以降その内容について検討を行ってきました。

今回の試作では、宮城県水産技術総合センターの小型真空フライヤー※２を使用し、14 種の加美町産野菜の減圧低温フライ加工を試みました。試作品の一部には、そのまま商品化できそうなものもあり、今後は素材の絞り込みや処理時間の検討などを重ね、商品化へ向け完成度を高めていく予定です。

新たに開発された加工品はこの秋（11 月頃）にやくらい土産センターの直売所で販売される予定です。普及センターでは、今後もプラビラボのメンバーと協力し、加美町の中山間地域の活性化に向けた活動を展開していきます。

※１　地域おこし協力隊

都市地域から移住してきた人等が地方自治体から役割を任され、地域づくりの担い手となる制度で、およそ３年間の任期の後は、受入自治体のサポートも得ながら、その地域への定住・定着を目指す取組です。

活動内容は、地域ブランドや地場産品の開発・販売・ＰＲ等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、楽器の作成、地域住民の生活支援など多岐にわたっています。

※２　真空フライヤー

減圧状況下による低温フライを可能とした食品製造機械。通常の常圧フライと比較して調理後の風味・色彩の維持、低油分、栄養保持、さらには発がん性物質とされているアクリルアミドの抑制などのメリットがあります。 野菜・果物・肉・海産物なども幅広い食材での調理が可能なため、様々な分野での活用ができます。

○「蔵の華」栽培研修会（第２回）を開催しました
令和5年8月18日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年８月８日、気仙沼市廿一地区で酒造好適米「蔵の華」を栽培する「清流『蔵の華』廿一会」（会長：熊谷公兵氏）を対象に現地研修会を開催しました。会員やその家族計 11 名が参加し、会員 12 名のうち７名のほ場を抽出して巡回しました。

研修会では、登熟・品質の確保に向け、今後も高温が見込まれる中での水管理や、前回研修時（7/14）の予想からさらに前進した生育に合わせ、適期に収穫できるよう、収穫機や乾燥機の早めの準備について確認するとともに、熱中症対策の徹底についても注意喚起しました。

いずれのほ場も穂揃期に達し、出穂が７月下旬となったほ場では、すでに１回目の斑点米カメムシ類・穂いもち防除を実施するなど、生育の早まりに応じた適期管理がされていました。

今年は、７月下旬から連日 30℃近い高温でしたが、

丁寧な水管理や葉色に応じた肥培管理により、順調に傾穂してきています。
本年度は、春の田植え体験会に加え、秋には収穫体験会も予定するなど、コロナ禍後の PR に向け会員の士気も高まっています。
次回は、適期収穫により品質を確保するため、８月下旬に登熟状況を確認する現地研修会を開催する予定です。

○地場野菜と牛乳を使った料理実習で技も元気もアップ
令和5年8月30日
大崎農業改良普及センター

令和５年８月 23 日、大崎市地域交流センター（あすも）で農村女性リーダーや生活研究グループ員を対象に女性農業者の技術伝承研修会を開催しました。４年ぶりの料理講習となった今回は、農村女性が持つ知恵や技術に磨きをかけ、次世代へつないでいくことを目的として、矢内信孝氏（鳴子温泉　元祖うなぎ湯ゆさや 料理長）を講師に、地場野菜と牛乳を使ったレシピを４品実習しました。
講師から作業の流れや材料の下処理のポイント等について説明を受けたあと、実習が進められました。講師がきゅうりの飾り切りの実演をはじめると、参加者誰一人話すことなく講師の手元をしっかり見る姿は、皆が技術を自分のものにしようとする真剣な雰囲気を感じました。久しぶりの料理講習は、終始和やかでとても楽しそうでした。
普及センターでは、これからも農村女性の活動を支援してまいります。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○第２回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会が開催されました
令和5年8月7日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年７月 27 日、今後の稲作経営振興に向けて、市町、JA 新みやぎ南三陸統括営農センター、農業共済等の関係機関が参集し、管内の取組状況を視察し、意見交換を行いました。
今年は、南三陸町内の、JA 新みやぎのペースト２段施肥田植えの実証ほ場、南三陸液肥を用いた栽培ほ場を会場としました。
ペースト２段施肥は、ペースト肥料を土中の異なる高さ２か所で施肥することで、基肥と追肥の効果を持たせ、従来の肥効調節型肥料で問題となっていたプラスチック被覆資材の海洋流出の解消を目的としています。
南三陸液肥は、循環型社会の実現に向け、生ごみを回収・メタン発酵させてエネルギー化するという取り組みの一環で、発酵後の残渣（消化液）を肥料として使用するというものです。県の試験場でも水稲、野菜類等で試験を行い、実用性が確認されたことから、今年、「普及に移す技術」が“発酵”、もとい“発行”されています。
当日は、それぞれのほ場を管理する、廻館営農組合長、有限会社山藤運輸担当者から、管理履歴やねらいなどについて説明を受けるとともに、ほ場見学を行い、肥効調節の難しさや費用対効果を考慮した使用判断の要点など、普及に向けた課題について活発な意見が交わされました。
当普及センター管内は、南三陸町、気仙沼市とも海に面し、水産のイメージも強いことから、海洋環境への配慮による持続可能な農業生産の先進地を目指していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER No.199
発行日:2023 年 9 月 15 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp